

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容、事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	たかのすケアセンターそよ風
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	秋田県北秋田市米代町5-4
記入者名 （管理者）	武石 優喜子
記入日	平成 21年 7月 31日

自己評価票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	そよ風憲章 (基本理念)(介護サービスの基本方針1~5) (品質方針1~3)がある。		
2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼で月、水、金に唱歌し、理念を理解し運営に取り組んでいる。今期のスローガン「共生社会を実現」そよ風の永遠のテーマは「感動介護」。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	大きく分かり易いように常に見えるホーム入口に掲示している。家族会。地域運営推進会議の場などで年1回説明している。		
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	そよ風を知ってもらう為の取り組みとしてそよ風新聞を毎月、回覧や配布を行っている。また、外出(日光浴をかねて散歩、買い物、盆踊り等)を多く取り入れ、地域住民と会話する機会を図っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加として、職員による年2回の早朝缶拾い、もちっこ祭りでのフリーマーケット出店へ参加。地元の人々と交流では夜間の供養盆踊り、花火大会、鷹巣祭典、もちっこ祭りに参加。		米代自治会長がまだ決まっておらず、自治会総会に出席できるようにしていきたい。

たかのすケアセンターそよ風

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	地域運営推進会議で、設備が整った施設でも火 事の場合、煙を吸って亡くなるのが現状と意見が 出された。施設側の対応として、スプリンクラー があるが、煙感知器を取り付けた。地域の方には 投的消化器の情報、演習を行った。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームの基本方針に伴い、評価項目が 昨年と今年が変更になっている。経緯をミーティ ングで伝え、職員全員で評価項目を記入し弱いと ころに気付くことが出来た。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	運営推進会議の行事報告後（鉢による田植え） メンバーから観賞用の稲がある情報を頂いた。実 際に写真撮影し、利用者の楽しみ事にならないか との意見を頂いた。今は稲の成長を写真に取り続 けている。		「昔の農業を思い出す」をテーマに田植えに取り 組んだが、観賞用の稲がある事を写真を通して 利用者に伝え、アート作品が出来る様になるまで 続けて行きたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	グループホームの現状は高齢化（平均89歳） で重度化しつつある。特養申請している中でも順 番がない現状があり、フォーマル、インフォー マルの情報を得る為に市に相談に出向いている。		重度化していく中で地域のグループホームとの 連携（情報交換の場）が図られることが大事だ と思われる。そこでの取り組み方法に何があるか考 えていきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	1名の家族から相談があり、資料の取り寄せを し話し合いを持ったが、取りやめとなる。ケアマ ネ研修で制度を勉強し、全体会議の場で職員に伝 達をしている。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	（職員と利用者）（家族と利用者）の身体的虐 待は見られない。先日の実地指導で「ちょっと 待って」の言葉が拘束にあたいすることがわかっ た。グループホームでは疎遠な家族には職員が間 に入り、今の本人の思いを代弁したり、近況報告 等を知らせ、話題提供に取り組んでいる。		身体的虐待は目で確認する事ができるが、言葉 の虐待については、どんなものがあるのか、学ぶ 必要性を感じている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

たかのすケアセンターそよ風

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>これまでの異動者はいない。1年以上の病欠・退職者は契約1名、パート1名。新職員2名を採用している。採用前に体験ボランティアで動きや利用者の反応を見て、採用の可否を決めている。個々の能力に応じたシフトを組み、利用者との信頼を図れるよう努めている。家族へは毎月のお便りで知らせている。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>そよ風全体の勉強会の他、グループホームの勉強会で学びたい内容をリストアップし、担当制で年間で計画し毎月行っている。また、外部研修は「認知症について」を中心に随時参加している。報告書をもとに内部勉強会を行っている。</p>		
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国グループホーム協議会へ入会している。秋田県グループホーム協議会へは、非会員で総会、事例発表会へ参加し情報を収集し、サービスの質の向上に努めている。他のそよ風のグループホーム事業と連携を図る為、内部研修(他のGHへ行く)を行い、交流を図っている。</p>		
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>月1回程、ミーティングを行い、業務上の悩みや困り事を話し合っている。職員の親睦会も数回行っている。休憩室の活用ー身体を休める場・集中して書類を書く場。</p>		
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各々が各委員会に参加しグループホーム以外の部署と連携しそれを現場に持ち帰り、役立てられるように努めている。委員会は、向上心を図る上でメンバー変更をすることで、しないところがある。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族から、本人の日常の流れを伺い、施設でも同じ流れができるように、物品と環境をおなじようにする。こちら側に対する本人の思いを聞いたり、家族の代弁を聞くなどしている。入居してからの数日間は、同じ職員が身の周りの担当し、本人の不安を取り除くようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受ける場合にはケアマネが同席するなどし、家族の不安を取り除く努力をしている。最初に家族からお話を十分に伺い、不足点をケアマネから補足してもらっている。建物を本人や家族に見に来て頂くよう、促している。その後の不安に対してその都度、説明し安心して頂けるよう努めている。職員は本人と家族の思いがある場合は、</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の要望で習慣である新聞、牛乳、買い物、散髪などは入所直後から関わられるように配慮している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>不安の強い利用者には段階的な支援の工夫を行っている。</p> <p>方法—ショートを利用し建物の仕組みに慣れて頂く。その間、居室を案内させたり、グループホームの職員が訪問を多くし、話しを何うなどして安心が得られるよう努めている。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家庭菜園（稲の間引き、水かけのやり方）料理（正月料理、餅つき、干し柿、漬物）利用者から学びながら共に作り育て、成功や失敗を共有しながら生活している。</p>	

たかのすケアセンターそよ風

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来れる日に外出・受診を組み入れ以前の本人と現在の本人を知ってもらう場としている。時間がある家族の場合は、おやつやレクリエーションと一緒に参加し共同作業の場が図れるように努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会の時に、利用者の手作りおやつを提供するなどし、本人を知ってもらう工夫をしている。行事を通して施設に足を運んで頂き、共有時間をもてるようにしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	建物の関係上、馴染みの環境が近くに存在する。行事は合同を取り入れ、馴染みの人と会い、お話ができるようにしている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションの時間に共同作業を取り入れ入居者同士が関わり合う時間を設けている。その中で皆様が協力しあえるよう。声掛け。見守りを行っている。(No.25と同様)		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時は、個別のアルバムを渡している。その時、介護で困った事がある時は「いつでも足を運んで下さい」と伝えている。地域でご家族とお会いした時は、「その後どうされてますか?」と必ず声をかけている。その情報を職員間で共有している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活については、担当職員が本人の思いを聞きだすようにしている。(お風呂場での介助時など)外での楽しみ事については、本人の言葉や家族の情報を得て、個別外出計画を立て、本人の思いに添えるように努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>やりたい事、過ごしたい方法などを健康状態に合わせ維持できるよう努めている。(市日、家族との外出、編み物。歌など)</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>生活の中で本人が出来る能力はカンファレンスで話し合い、過剰介護にならないよう、本人にやって頂けるよう統一ケアに努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンス前に担当が計画作成者が生活に対する本人の考え方、思いを伺いカンファレンスやプランに反映できるようにしている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度モニタリングし、行えているか判断している。状態変化に応じた随時見直しを行っている。入院、退院された時には状態が安定されるまで1ヵ月に1度のモニタリングを行っている。プランに反映している。</p>	

たかのすケアセンターそよ風

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に1日の生活を細かく記録し変化があった時はカンファレンスを行い記録に残している。		今後はケアプランに沿った記録ができるように改善していく。プランとモニタリングが切れ切れにならないようにしていきたい。 *そよ風の統一書式に移行予定あり。
3.多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	住み慣れた環境で、重度化しても馴染みの職員と長く過ごせる為に入浴はデイサービスの機会浴を借りたり、歩行訓練として平行棒を借りたり、状況に応じてエアマットを借りたり、本人と家族の暮らしを守る支援に努めている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	夜間の火災発生時は、職員だけの避難に無理がある。その為、地域の方、民生委員に呼びかけし夜間想定のコラボ避難訓練を行った。		職員側から見た反省点・住民側から見た反省点をふまえ、改善しながら、今後も継続していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や必要に応じて、美容師の出張サービスの利用や、行きつけの理美容院への移送サービスを行っている。また、外食したり、出前をとったりして、利用者の選択肢を増やしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	過去に身よりのない利用者のケースで買い物依存症があり、手持金が少なくなっていく現状で、現金管理を第三者(教え子)が管理しているケースで地域包括支援センターに相談し連携を図った。		権利擁護に関わるネットワークについて勉強不足のところがあり、学んでいきたい。

たかのすケアセンターそよ風

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	初回の通院は先生より説明があるため、家族同伴で受診しています。受診結果はケースによって、毎回知らせるケースと回復に向かっているケースはまとめて知らせるなど、家族のニーズに合わせている。病院は協力病院、かかりつけ医院、歯科以外のところは、家族対応でお願いしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の症状、対応方法はかかりつけ医に相談し、指示や助言を頂き対応している。また、時にはかかりつけ医から家族へ説明後、紹介状を持って受診先を変更したりしている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者、計画作成者が看護師の資格を持っているため、利用者の健康管理の医療的な部分では、いつでも話し合える環境にある。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の利用者の面会をしたり、家族へも面会后、そよ風に立ち寄って頂くなどして常に状況把握に努め対応している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	年1回、家族、利用者に意向調査を行っている。利用者の変化や重度化した場合、意向調査をふまえ、家族との話し合いの場を増やし模索しながら支援している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	自然死の場合、グループホームで受け入れる話し合いをかかりつけ医に了解を頂いている。それに向けて、職員が外部勉強会に参加し、共有し安心を常に考えて模索している。		いずれは、医療連携体制を整え、職員教育のもとターミナルケアまで持って行きたい。

たかのすケアセンターそよ風

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

たかのすケアセンターそよ風

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みを栄養士へ報告しバランスの取れたメニューを計画。食材はワゴンを押して利用者と一緒に厨房へ受取に行く。また、スーパーへ一緒に買いに出かけている。調理・盛り付け・後片付けはやりたい利用者が職員と一緒にやっている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	各テーブルに飲み物のセレクトメニューが置いてあり、好みの物を飲めるようになっている。お酒については居室の冷蔵庫に個人管理されており、好きな時に飲めるようになっている。たばこは現在吸われる方がいませんが、エレベーターホールに喫煙所が設けられている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	排泄チェック表で排泄のパターンを把握し、汚れの確率を減らすため、さりげない誘導に努めている。状況に応じて、日中、布パンツにしている。状態がすぐれない状況であっても便だけは、本人の思いを尊重し、トイレでの排泄の支援を行っている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前に入浴の意思の有無を尋ね、バイタルチェックを行い健康状態を確認し、本人の希望を尊重している。又、利用者の好みの湯温や入浴時間を把握し希望に添った入浴介助が行えている。季節(ゆず湯、しょうぶ湯)気分(入浴剤)に合わせて入浴して頂いている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人記録に利用者一人一人の睡眠時間を毎日記入し、睡眠パターンを把握している。リズムが不規則な方には日中、運動、散歩。夜間は、ホールの好きな場所で自由にすごしている。その間、職員との会話をしながら、飲み物を提供している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみごと 餅つき、手作りおやつ(味噌つけタンポ、どら焼き、おはぎなど)を毎月2~3回組入れている。自然にうまれた役割を職員は見守るようにし、失敗も成功も楽しみごとになっている。		

たかのすケアセンターそよ風

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が手元に持てるお金は1万円以下とし、本人が自由に管理している。食べたい物を預り金から買う場合は月末にレシートを家族へ送付している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季を身体で感じて頂けるようにドライブを計画している。次にどこへ行きたいか利用者の声を聞いて計画を立てている。花に興味を示す利用者が多いので散歩を兼ねて花の多く咲いている所へ導いている。近くの受診や買い物は車ではなく、歩き(車いす)を取り入れている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日は集団で祝う事をやめ、本人が行きたい場所、やってみたい事を伺い希望に添えるよう家族に相談し了解を頂き楽しい1日になれるよう努めている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の電話の利用の要望時や荷物が送られてきた時等のお礼の電話などは、さりげなく支援している。手紙、はがきの書ける人は1対1で関わるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に家族が面会できるように和室や入口を活用し、居心地良くすごせるような面会の場を設けている。遠くから来られたご家族に対しては夜間の面会、または宿泊を受け入れしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束者なし。ペットを利用していない方2名である。月1回、身体拘束廃止委員会が始まる前、居室内の確認を行い、話し合いや情報交換をしている。		

たかのすケアセンターそよ風

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は非常口、グループホーム入口は鍵をかけていない。非常口は利用者の好きな花、鉢などがあり、晴天時は常に開放し利用者が水かけや観賞、日光浴の場になっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は利用者の居室の入口を10cm開け安否確認を行っている。本人の好みののれんを入口にかけ、プライバシーの確認に努めている。カウンターが中央にあるので利用者全員を見回せる配置にある。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や消毒液は利用者の手の届かない所へ保管している。薬は鍵のかかるキャビネットに保管している。ハサミは手の届く所へ保管。縫い針は決まった所へ保管。居室にはさみと針を所持している方が5人いる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットで出された対応策をケアプランにのせ、同じ事がおこらないよう努めている。又、事故業務処理報告書を記入で終わらず、評価日を設けて対応策が適切か見つけ直している。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	年1回、施設に消防士を招き救急救命、応急手当の講習を行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は年2回実施している。今年は夜間職員だけの限界をふまえ、地域の方と合同訓練を行っている。		地震による避難訓練を今後定期的にやれるようにしたい。

たかのすケアセンターそよ風

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒を繰り返している利用者のリスクを最小限にするため段階をおって、家族に説明し同意を得て実施している。例えば和室での観察から、居室での観察し、その都度、ナースコール指導。居室内の配置変え、床の衝撃吸収マットを使用など。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入浴時の時は、ボディチェックを必ず行い、その他、小さな変化でも職員同士で確認しあい、看護師に報告、指示を仰ぎ対応している。その状況を個人記録へ記入している。気になるケースの時は家族へ状態報告し受診の体制を整えてもらっている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はカードックスに保管しいつでも見られるようにしている。服薬チェック表を活用している。薬の服用方法の間違いが発生した場合は主治医に連絡し指示をもらえる体制になっている。受診時は温度版表や経過記録を医師に提供している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促す努力として、毎朝、食事前の牛乳提供。日々の運動の他、入浴時の腹部マッサージを取り入れている。体調に合わせ、下剤調整を行うケースある。排泄チェック表を参考にトイレの便座に座り、りきむ声かけをしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行い義歯洗浄をしている。週1回のポリデント消毒を実施。毎朝のお茶うがいと、外出後のうがいを実施している。ケースによっては歯科医のアドバイスを元に磨き残しを介助している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量、食事の摂取量を記録し、職員が把握できるようにしている。水分不足時は、好みの飲み物を促したり、すいか、メロンなど果物のおやつに変えている。栄養の偏りのある方は個別外食による促しをしたり、茶碗を白から黒に変えたり丼ものを別々に分けて模索提供している。		

たかのすケアセンターそよ風

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会作成の感染予防対策のマニュアルがあり、それに添って実行している。利用者には家族、本人の同意後、インフルエンザの予防接種を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具等、使用後は消毒を行い冷蔵庫内は1週間に1回清掃、消毒を行っている。食材は冷蔵、冷凍庫で保管し、保存した日付を記入するようにし職員が誰もがいつの日の物が把握できるようにしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム入口自動ドアの上にひと目で面会者がわかるよう「グループホーム」と明記している。入口に小テーブルと小イス2個設置し誰もが自由に座れる空間を設けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム窓は障子を使用し、和風的な雰囲気を作る家庭的な環境を整えている。装飾は子供の習字や絵を飾り家庭的な雰囲気を有している。トイレには窓が無い為、24時間の換気によって臭いを防いでいる。女子トイレは広くて施設風な為、飾りを貼り工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各テーブル間や椅子の配置に余裕を持たせ個々の空間を作ることができるようにしている。お茶等を飲みながら会話できる談話室、テレビを見ながら会話のできる様にソファを設置し利用者同士で自由に過ごして頂けるようように努めている。		

たかのすケアセンターそよ風

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で本人が親しみなれた生活用品・家具などを居室に持ち込んでもらっており過ごしやすい、生活環境作りに努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物が2階なので冷暖房は常に気を配っており、定時に10分間の換気と温度計の確認を行い調節を図っている。又、風の通り道があり、空気のだよみは、すぐに改善できる環境にある。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すりは各居室前まで設置している。洗面所は独歩、車椅子どちらの方も使用できる高さになっている。各居室に物干しを置き「干す、たたむ」等の残存機能の配慮に努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレと風呂場の認識間違いがあるので張り紙でわかるように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに利用者と一緒に買いに行った花を栽培したり、苗植えをし、水やりや観賞などがいつでも出来るようにしている。又、天気の良い日は日光浴の場として活かしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

たかのすケアセンターそよ風

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)